

「平成24年度版 2級建築士試験 学科 厳選問題集500+100」
【 訂 正 】



「平成24年度版 2級建築士試験 学科 厳選問題集500+100」No. 118 (p593)に、誤りがありましたので、深くお詫び申し上げます、下記の通り訂正いたします。こちらの資料に差替えをお願いします。

No. 118 ★

Check

建築材料の断熱性に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. ALCパネルは、軽量で断熱性に優れているので、外壁・屋根・床等に広く用いられる。
2. グラスウールは、吸水しても断熱性能は低下しないので、湿度の高い場所における断熱材としても用いられる。
3. ポリスチレンフォーム等のプラスチック系の断熱材は、紫外線による劣化のおそれがあるので、直射日光に当てたまま長期間放置してはならない。
4. 鉄筋コンクリート構造において、プレキャストコンクリート部材を用いた部位に対する断熱工法として、打込み工法は適さない。
5. ロックウールは、耐熱性があるので、高温の場所における断熱材としても用いられる。

No. 118 解説

答2

1. ALCパネルは、高温高圧のもとで処理した気泡コンクリートで、軽量で、断熱性に富んでおり、外装材として用いられるほか、耐火被覆材としても使用される。
2. グラスウールは、断熱性に優れているが、透湿性が大きく、表面がぬれて吸湿すると断熱性が低下する。
3. ポリスチレンフォーム等のプラスチック系断熱材は、吸水性が少なく、断熱性に優れるが、日射により劣化する。
4. プレキャストコンクリート部位の断熱工法は、吹付け工法、張付け工法、はめ込み工法とし、打込み工法については、現場打ちコンクリート部位のみ適用することを標準としている。
5. ロックウールは、岩綿ともいう。安山岩や玄武岩などの岩石を溶かして高圧空気を吹き付け、急冷して繊維状としたもので、断熱性、耐熱性に優れている。また、吸音材としても用いられるが、遮音性はない。